

10月16日開催「ローコード開発成功事例ご紹介セミナー」 Q&A

	ご質問	回答
GeneXusについて	ヘルプのサイトは見れるのでしょうか？	GeneXus自体に、ヘルプ機能が搭載されております。 また、セミナーの中でお伝えした、"GeneXuswiki"は、どなたでも見る事が可能です。 http://wiki.genexus.jp/hwiki.aspx?GeneXus+16+%e3%83%98%e3%83%ab%e3%83%97, また、GeneXus MaketPlaceにてGeneXus技術者が開発したUserControll等の部品群が利用できます。 https://marketplace.genexus.com/home.aspx?,en
	ワークフロー等の実装も簡単にできるのですか？	一般的に販売されている、ワークフロー製品は、ワークフローに必要な機能が実装されている為、GeneXusで構築するシステムと連携した方が、効率的と考えます。 稟議や旅費申請ではなく、業務のフローという事でしたら、GeneXusのオプション製品である、"GXFlow"を使用すれば、実装可能です。 また、弊社では、GXFlowを利用せず、フラグ制御等で、業務進捗のステータス管理や、メール送信等を実装し、業務フローを実現しております。
	大規模基幹業務システムの場合のパフォーマンスとDBを含めたメンテナンスビティはどうでしょうか？	GeneXusだから、特別な事をしなければならぬ訳ではございません。 一般的なスクラッチ開発の時と同じと考えて頂ければと存じます。 例えば、 ・データベースのインデックスの見直し ・GeneXusのプロシージャ部分で記載した、業務ロジック（組み方）の見直し ・データベースのモデリングなど。
	GeneXus上でJavaやC#、SQLは書けますか？	記載する事は可能です。 Javaのコードを記載し、C#.netを指定しビルドを行った場合、Javaで記載したコードは無視され、ビルドされません。 GeneXusの特長である、マルチプラットフォーム対応を活かさないと、かつJavaや、C#.net技術者が必要になる事などから、コードを記載する事は可能ですが、弊社では推奨しておりません。
	ドキュメントやDB設計書等を自動生成する機能はありますか？	簡易的なER図は、GeneXusで表示出来ます（Diagramオブジェクト）。それ以外にもございますが、日本のユーザ様が満足するレベルの機能ではございません。 弊社では、お客様のナレッジ（システム）を預かり、ナレッジから自動的にドキュメントを出力するサービスを提供しております。 ナレッジの大きさや、作り方から、出力可能なドキュメント及び費用をご提示し、合意を弊社でドキュメントを出力するサービスです。 現在、ツールでの提供に向け、社内で検討中です。 ツール提供が出来る準備が出来次第、弊社サイト及びメルマガで、お知らせ致します。
	OSのバージョンアップ対応等にビルドをするだけで対応可能とのことでしたが、GeneXusのマイナーバージョンをアップグレードするというような作業は必要なのでしょうか？	GeneXusのメジャーまたはマイナーバージョンの都度、GeneXus自体をアップグレードする必要はないと考えております。 GeneXus自体のサポートが終了するバージョンをご利用されている場合は、アップグレードして頂きたいと思いますが、それ以外は、最新バージョンの機能が使いたいとか、理由がない限り、アップグレードされているお客様は、少ないです。
	Genexusでのテストの品質評価はどのように行っていますでしょうか？ 簡単な記述で実装されるため、一般的な言語のようにプログラムステップ数や画面項目数等は基準にしにくいと思っております。	ご質問の通り、一般的な言語によるステップ数等の品質基準は、GeneXus開発での適用は、難しいです。 弊社では、今までの経験やノウハウから、テスト仕様書のフォーマットを、弊社では用意しており、各プロジェクトで利用しております。 プロジェクトによって、フォーマットのテスト項目に、合う・合わないがございますが、必要に応じ、テスト項目を追加等行い、テストを実施しております。 品質基準についても、GeneXus独自の基準を設けており、テストを実施しております。 また、オプション製品でGXTestがありUIテストの自動化も可能です。（Ultestオブジェクトに実行テストケースをロジックで記載する。いつでも何回でも実行することが可能）

10月16日開催「ローコード開発成功事例ご紹介セミナー」 Q&A

	ご質問	回答
開発プロセスについて	3か月の工数の内、イテレーションにかけた工数をご教示いただきたい	全土工数の約6割を、イテレーションで行った「設計・プロトタイプ」工程に充てました。
	今回のプロジェクトの場合、開発～レビューのサイクルは何回くらい繰り返されましたか？システム規模によるかと思いますが通常はどれくらいの回数まわすのが標準でしょうか？	<p>弊社では、大体3回のサイクルで行っております。</p> <p>システム規模やシステム内容によって、プロトタイプレビューの対象範囲及び、1サイクルで、何をどこまで詰めるか。2サイクル目で、何を行うのか等、お客様と事前に合意を得てから、開発をスタートしております。</p> <p>またレビューの間隔が短い為、お客様のご協力が必要です。この点含め、お客様との事前合意が必要と考えております。</p>
	GeneXusを使用した開発は、アジャイル開発を適用し易いのですか	<p>アジャイル開発に適用し易いと思います。</p> <p>ご存知の通り、アジャイル開発は、システム全体の開発を一気に行うのではなく、システムを分割し、分割した単位で、要件定義～リリースのフローを繰り返すプロセスです。</p> <p>アジャイル開発のデメリットとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さく、素早く開発・リリースする為、開発期間が短い。（当たり前ですが） ・進捗管理が複雑になる。 <p>複数チームで開発を行う場合、あるチームは、お客様の検証待ちだったり、また他のチームは、開発中だったり。</p> <p>また並行開発を行わない場合でも、最初の機能をリリースしてから、次の機能の開発に入った時、最初の機能の変更が発生するケースがございます。その仕様変更等の管理も、ウォーターフォール型と比べると複雑になります。</p> <p>GeneXusは、データベース項目の修正や、プログラムの修正など、自動生成してくれる部分が多い為、スクラッチ開発に比べ技術者の負担を軽減出来ます。</p> <p>開発期間についても、GeneXusで開発する事で、短期間での開発を可能にします。</p> <p>開発プロセスについて、弊社が実践している開発プロセス含め、繰り返して開発を行う事に対し、アジャイル開発と呼んでいる事が多いです。</p> <p>厳密に言えば、弊社の開発プロセスは、「イテレーション開発」になります。</p> <p>他社で、アジャイル開発と呼んでいるものも、良く見ると、「イテレーション開発」が多いと思います。</p>
ウォーターフォールで開発する場合、Genexusはあまり向いていないのでしょうか	<p>アジャイルや、スパイラル（インクリメンタル、イテレーション）に向けたツールだと捉えておりますが、弊社でも、ウォーターフォールでは、GeneXusによる開発経験はございます。</p> <p>設計工程内で、プロトを用い仕様確定を行い、仕様漏れや手戻りを防ぐよう、進めた事がございます。</p> <p>その場合でも、GeneXusを使用する効果はあったと考えております。</p> <p>設計工程まで、通常のやり方で進め、開発・単体テスト工程から、GeneXusを使った開発を行った場合、GeneXusを意識した設計が出来ていれば、開発工数の削減メリットはございます。</p> <p>但し、プロジェクト全体から見た場合、上流工程から、GeneXusを投入された方が、効果があります。</p> <p>GeneXusを意識しない設計が行われ、開発から、GeneXusを使用した場合、GeneXusを使用するメリットはかなり薄れると思います。</p>	

10月16日開催「ローコード開発成功事例ご紹介セミナー」 Q&A

	ご質問	回答
	スクラッチ開発と比較して40%の工数削減できた理由として、マスタ画面系はすべてGeneXusのトランザクションをデフォルトで使用したためでしょうか？	弊社では、システム構築一般で多く使われる、一覧画面や詳細入力画面、マスタメンテ画面や、エラーチェック含め各部品をテンプレートとして用意しております。積水工業様の開発では、そのテンプレートを利用し、開発の効率化を行いました。 事前にテンプレートを用意していない場合でも、通常のスクラッチ開発より、生産性向上の実現は可能です。 セミナーで、最後に紹介した、「G.RAD.E」は、積水工業様の開発で使用したテンプレートを、改善したものです。 ご興味ございましたら、ぜひ、GeneXus説明会にご参加頂けたら幸いです。
	プロトタイプで早期に発見することができた仕様漏れは例えばどんなものがありますか？	メイン機能である日報入力画面においては約30件の要望が上がり、その殆どは見た目（見やすさ、入力のしやすさ等）に関する内容ですが、処理に関する内容として早期で発見できた一例としては、承認範囲（承認する対象、承認を依頼できる範囲）の制限・変更を可能にするという仕様です。 テーブル設計の見直し・実現方法の検討が必要になるインパクトの大きい要件でしたので、もしプロジェクト後半で要件が出されてしまうとシステムに組み込むハードルが上がり、戻り作業が多く発生することになっていたと思います。
	OJTでの教育を実施された際、苦労した点はありますか？	技術面においてはやはりお客様のDB、VBAの知識があった点から習得は早く苦労はありませんでした。 他に苦労したというより工夫した点としてはスコープ管理に関する部分です。 お客様が担当された機能についての仕様変更・要望については当然サポートはするものの、なるべくお客様自身ですべて管理・修正いただくようお願いしました。 これによりこの機能に関して要望が膨らむことを抑制でき、本当に必要な機能のみに絞られ、品質の向上につながったと思います。
他ツールとの比較	高速開発ツールは、色々有るかと思いますが、他のツールとの比較は有ったのでしょうか？	船戸様の前職で、GeneXusの導入及び効果を体験して頂いている為、積水工業様では、他ローコード開発ツールとの比較は、行いませんでした。
	OutSystemsとの比較はされているのでしょうか？	
	アウトシステムズと比べて如何でしょうか？	GeneXusよりも、Outsystemsの方が、AIの利用が進んでおります。技術者がフローを作成する中、その先のフローをAIがアドバイス機能がございます。 また、GeneXusよりも、多くのテンプレートがデフォルトで用意されております。 画面遷移、処理のフローチャート化などで目視で、処理内容が把握できる点は、開発経験が少ない方にとっては、分かりやすいかもしれません。 以前は、.Netにも対応していましたが、現在は、Javaのみです。 但し、ライセンス費用及びランニングコストで、GeneXusよりも、多くの費用が掛かります。 システム規模や、利用ユーザ数、利用環境等によって、ランニングコストが変わってきますが、IT予算が潤沢な会社でないと維持が難しいケースが発生したとお聞きしております。 GeneXusは、開発者ライセンスでかつ、マルチプラットフォームに対応している為、システム規模や利用者、利用環境に依存しません。 OutSystemsの開発方法・画面（画面遷移、処理のフローチャート化などで目視で、処理内容が把握できる点など）は、開発経験が少ない技術者にとっては、わかりやすいかも知れませんが、開発経験がある技術者にとっては、今まで、開発方法が大きく異なる為、理解されるのが、大変。 また、保守（仕様変更・修正など）の行い易さや、自動展開（修正箇所に関連したところを、自動修正してくれる。（自動修正させない選択も可））があり、GeneXusの方が、効率的。 と、GeneXus、Outsystems両方の開発を行った、IT企業から聞きました。
	FileMakerよりもGeneXusを選択したポイントは何でしょうか？	今回、WEBでシステム構築する為と、DB設計及び、将来の拡張性を考慮。 この先、もっと複雑なシステムを構築する場合、GeneXusの方が適しているご判断頂きました。